

X I 総合看護研究施設

1 位置づけ

本研究施設は、1991年4月1日に設立された。設立の目的は、建学の精神に則り、看護の分野に関連する諸科学を科学的、技術的、総合的に研究し、看護の発展に寄与貢献することである。

(1) 看護の基礎的検討

看護のユニフィケーションをめざして、看護教育と臨床医学の連携について分析し、総合看護の実践にふさわしい教育施設としていく。

(2) 看護教育に関する研究

- ① カリキュラムの研究
- ② 看護教育制度と方法に関する研究
- ③ 教育評価の測定に関する研究

(3) 看護における関連諸科学との総合研究

- ① 看護の質保障に関する研究
- ② 看護と医療経済に関する研究
- ③ 看護環境の動向（予測）に関する研究
- ④ 生命倫理からみた看護に関する研究

2 組織

構 成 員	
所 長	中谷 啓子（教授）
所 員	吉野 由美子（准教授）、橘田 節子・蔵本 文乃（講師）、 渡邊 真弓・岩屋 裕美（助教）※岩屋 4月まで

3 施設概況

総合看護研究施設（J 館）があり、総延べ面積は、施設面積約 30m²である。主な設備は、コンピュータ（ノート型、インターネット利用可能）1台、カラーレーザープリンター1台、プロジェクタ1台、デジタルカメラ1台、ラミネーター1台、ビデオカメラ2台、ビデオカメラ用三脚2台、プロジェクタ・書画カメラ（実物投影機）・取り付け型電子黒板ユニット1セット、60型スクリーン1台である。図書・雑誌等は、図書館と連携し、図書館所蔵資料を活用している。

4 活動概要

今年度は、引き続き看護職者を対象として看護研究に活用可能な統計処理に関する公開講座、および看護研究を推進するための個別（研究グループ毎）支援活動に取り組んだ。また、2006年度からの継続事業として、本学教員を研究代表者とし学校内外研究者をメンバーとするグループによるプロジェクト研究に対し研究助成金を給付し、研究活動の推進を支援した。

環境面では、教育研究活動支援の一環として、本施設管理の機器・備品の利用促進に向け、教員への周知を図るとともに、プロジェクタ・書画カメラ（実物投影機）・取り付け型電子黒板ユニット1セット、および60型スクリーン1台を購入し整備した。

さらに、2007年度からの継続事業として、地域住民を対象とし、健康生活の維持・向上に向けた啓蒙活動の一環として公開講座を実施し、広く地域に根ざした研究施設としての活動の定着・促進に努めた。今年度は、近隣3（平塚市、秦野市、伊勢原市）の広報誌・フリーペーパーへの無料広告の掲載、地域施設等へのポスター・チラシの設置に加え、フリーペーパーの有料広告掲載を行い広報活動の充実を図った。これらの広報活動の効果として、多くの地域住民の参加が得られ、本施設活動の一つである地域住民への健康生活啓蒙活動に関する地域住民の認知度向上・健康支援活動の推進につながった。

次に、主な実施概要を示す。

1) 公開講座

(1) 看護職者対象

月日／会場	テーマ	参加者数	担当者
7月17日／ 東海大学12号館3階 305 コンピュータ室	エクセルで統計処理 ーエクセルを用いた統計講座『入門編』ー 講師：松木 秀明先生 (東海大学健康科学部教授)	49名	中谷 啓子、秋元 とし子、 丹澤 洋子、横島 啓子、 吉野 由美子、阿部 ケエ子、 橘田 節子、蔵本 文乃、 渡邊 真弓、北室 和茂・ 西山 京子 (途中交代)

(2) 地域住民対象

月日／会場	テーマ	参加者数	担当者
11月20日／ 東海大学医療技術短期 大学講堂	めぐそう！脳活性 第1部： 講演「脳を若々しく保つ方法」 講師：灰田 宗孝先生（本学学長・教授） 第2部：実践編「五感を使って脳を磨く」 ミニ講義とデモンストレーション 担当：蔵本 文乃先生、渡邊 真弓先生 体験内容 ①「脳活性してるかな？」 虫食い算（体験前・後） ②花揚げゲーム ③風船渡しゲーム ④ボール（ピンポン球）渡しゲーム ⑤脳活性に良い菓子・飲み物の試飲食 ⑥リラックスに効く飲み物 等	132名	中谷 啓子、小川 景子、 林 真理子、吉野 由美子、 橘田 節子、蔵本 文乃、 渡邊 真弓、北室 和茂、 学生ボランティア6名

2) 研究支援

(1) プロジェクト研究

A 申請（採択）状況

番号	研究代表者	研究分担者	テーマ	研究申請期間
10-2201	吉田 礼子	秋元 とし子 林 真理子	看護実践能力を育む看護過程展開の教育プログラム開発 ↓ (2010 年度修正) ロールプレイを取り入れた「看護過程」演習の効果－「その人にあった看護」をキーワードとして－	2009 年度～ 2010 年度
10-2202	望月 好子	小川 景子 橘田 節子 石田 貞代	高校生によるピアエデュケーションによるエンパワメント ↓ (2010 年度修正) 高校生のヘルスプロモーション支援－ピアサポーター参加の効果に関するアクションリサーチ－	2009 年度～ 2010 年度
10-2203	中谷 啓子	蔵本 文乃 岩屋 裕美	住民の健康に関する学習ニーズと参加を阻害する要因－A 短期大学近隣住民を対象として－	2009 年度～ 2010 年度
10-2101	望月 好子	小川 景子 橘田 節子 石田 貞代	高校生の性教育におけるライフスキル学習のニーズに関する実態調査－高等学校保健教育担当教員を対象として－ ↓ (修正) 高等学校における健康教育への支援に関する研究－高等学校保健教育担当教諭の意識調査から－	2010 年度～ 2011 年度
10-2102	小川 景子	望月 好子 近藤 誓子	母性看護学教科書における“倫理”に関する記述内容の分析	2010 年度～ 2011 年度
10-2103	蔵本 文乃	秋元 とし子 林 真理子 千葉 美果	血圧計のカフのサイズと上腕の太さに関する研究	2010 年度～ 2011 年度
10-2103	中田 芳子	後藤 雪絵 渡邊 真弓	看護学生の主体的な禁煙活動の推進	2010 年度～ 2011 年度

B 研究成果（論文・学会発表など）

テーマ	研究者	掲載誌・発表学会（開催地） [巻(号)、頁、年.月]	研究申請期間
ロールプレイを取り入れた「看護過程」演習の効果－「その人にあった看護」をキーワードとして－	吉田 礼子 秋元 とし子 林 真理子	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設 論文集、(20)、p.3-14、 2011. 3	2009 年度～ 2010 年度
地域住民の健康に関する学習ニーズと公開講座への参加を促進する要因	蔵本 文乃 中谷 啓子	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設	2009 年度～ 2010 年度

－成人期・老年期の特徴に焦点をあてて－	岩屋 裕美	論文集、(20)、p. 31-40、 2011. 3	
高齢者世帯住民の健康生活に向けた公開講座の検討－健康状態と関係する要因に焦点をあてて－	中谷 啓子 蔵本 文乃 岩屋 裕美	東海大学医療技術短期 大学総合看護研究施設 論文集、(20)、p. 41-48、 2011. 3	2009 年度～ 2010 年度
地域住民の健康生活に関する実態調査－高齢者世帯に焦点を当てて－	中谷 啓子 蔵本 文乃 岩屋 裕美	第 30 回日本看護科学学 会学術集会講演集、 p. 427. 2010.	2009 年度～ 2010 年度
地域住民の健康生活に関する実態調査－健康情報への関心の発達段階別比較－	蔵本 文乃 中谷 啓子 岩屋 裕美	第 30 回日本看護科学学 会学術集会講演集、 p. 427. 2010.	2009 年度～ 2010 年度

(2) 看護研究を支援する活動

神奈川県内 100 床以上の病院等の施設に勤務する看護職者を支援対象として支援希望者およびグループを募集した。2010 年度は、11 件の応募があり、このうち申込み期限内に応募のあった 10 件の研究を支援した。研究支援期間は、2010 年 7 月から 2011 年 3 月までであり、最大 4 回の面接指導（1 回 1 時間程度）を本学総合看護研究施設において実施した。

研究支援を担当した教員は次の 9 名である。今瀬 繁子、中谷 啓子、瀧澤 直子、中田 芳子、望月 好子、吉野 由美子、飯室 淳子、蔵本 文乃、新村 直子。

3) 論文集の発行

2011 年 3 月 31 日、「東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集 第 20 号 2010 年度」を発行した。